

平成 2 1 年度

登 録 販 売 者 試 験

午 前 の 部

問題数 60 問

医薬品に共通する特性と基本的な知識	20 問	問 1 ~ 問 20
人体の働きと医薬品	20 問	問 21 ~ 問 40
医薬品の適正使用・安全対策	20 問	問 41 ~ 問 60

平成 2 1 年 1 1 月 8 日実施

試験上の注意

- 試験監督者からの指示があるまで、試験問題用紙は机の上に置いたままで手を触れないでください。
- 受験票は机の座席表の横に置いてください。
- 問題は、問題用紙の両面に印刷されています。
- 規定の時間が経過し退席する場合は、解答用紙のみを裏返して置き、静かに退席してください（解答用紙は持ち帰らないこと）。

解答用紙記入上の注意事項

- 氏名，フリガナ，受験番号の記入方法

〔例〕

受験番号10023番 の場合

- 1 氏名，フリガナを記入
- 2 受験番号を10023と記入する。
- 3 それぞれの番号のマークを塗りつぶす。

登録販売者試験解答用紙

(記 載 例)

フリガナ	カゴシマ	ハナコ
氏名	鹿児島	花子

受 験 番 号				
1	0	0	2	3
①	●	●	①	①
●	①	①	①	①
②	②	②	●	②
③	③	③	③	●
⋮	⋮	⋮	⋮	⋮
⋮	⋮	⋮	⋮	⋮

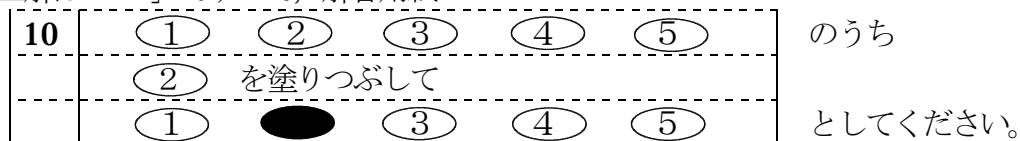
○ 解答方法

- 1 各問題には1から4まで四つの選択肢と1から5まで五つの選択肢がありますので、そのうち、問題に対応した答えを一つ選び、次の例にならって解答用紙に解答してください。

〔例〕 問題 10 鹿児島県の県庁所在地を下から選びなさい。

- 1 薩摩川内市
- 2 鹿児島市
- 3 鹿屋市
- 4 奄美市

正解は「2」ですので、解答用紙の



- 2 採点は、光学式読みとり装置によって行いますので、解答用紙への解答は、HBの鉛筆を使用し、○の外にはみ出さないように濃く塗りつぶしてください。シャープペンシルは使用できません。

良いマークの例




悪いマークの例



このような場合は、正解であっても解答したことになりません。

- 3 一度解答したところを訂正する場合は、消しゴムで消し、消し残しの無いように完全に消してください。

鉛筆の跡が残ったり、 の様に消した場合は、訂正又は解答したことになりませんので注意してください。

また、消しゴムのカスが残らないように注意してください。

- 4 1問に二つ以上解答したときは不正解となります。
- 5 解答用紙は、折り曲げたり、チェックやメモなどで汚したりしないよう特に注意してください。
- 6 印刷不良や落丁があった場合は、手を挙げてください。
なお、試験の内容についての質問には、一切お答えできません。

【医薬品に共通する特性と基本的な知識】

問 1

医薬品に関する以下の記述のうち、誤っているものを一つ選び、その番号を解答欄に記入しなさい。

- 1 医薬品は、すべて人体に取り込まれて効果を発現する。
- 2 検査薬は、検査結果について正しい解釈や判断がなされなければ、医療機関を受診して適切な治療を受ける機会を失うおそれがあるなど、人の健康に影響を与えるものと考えられる。
- 3 医薬品は、市販後にも、医学・薬学等の新たな知見、使用成績等に基づき、その有効性、安全性等の確認が行われる。
- 4 医薬品が人体に及ぼす作用は複雑、かつ多岐に渡り、解明されていない部分もある。

問 2

医薬品の副作用に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせを下から一つ選び、その番号を解答欄に記入しなさい。

- ア 一般用医薬品は、副作用が少ない成分を配合してあるため、重篤な副作用はない。
- イ 複数の疾病を持つ人の場合、ある疾病に薬効のある医薬品が別の疾病の症状を悪化させることがある。
- ウ 副作用は、容易に異変を自覚できるものばかりでなく、血液や内臓機能への影響等のように、直ちに明確な自覚症状として現れないこともある。
- エ 一般用医薬品は、通常、その使用を中断することによる不利益よりも、重大な副作用を回避することが優先される。

	ア	イ	ウ	エ
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	誤
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	正	正
5	誤	正	誤	正

【医薬品に共通する特性と基本的な知識】

問 3

アレルギーに関する以下の記述のうち、誤っているものを一つ選び、その番号を解答欄に記入しなさい。

- 1 アレルギーは、免疫機構が過敏に反応して、人体にとって好ましくない症状が引き起こされる反応である。
- 2 アレルギーには体質的・遺伝的な要素もある。
- 3 医薬品の中には鶏卵を原材料として作られているものがあるが、医薬品は高度に精製してあるため、鶏卵に対するアレルギーのある人がその医薬品を使用してもアレルギーを起こすことはない。
- 4 普段は医薬品にアレルギーを起こしたことがない人でも、病気等に対する抵抗力が低下している状態などの場合には、医薬品によるアレルギーを生じることがある。

問 4

以下の記述は、独立行政法人医薬品医療機器総合機構法第4条第6項に規定される医薬品の副作用の定義である。()の中に入れるべき字句の正しい組み合わせを下から一つ選び、その番号を解答欄に記入しなさい。なお、同じ記号の()内には同じ字句が入ります。

(ア) が適正な使用目的に従い適正に使用された場合においてもその(ア)により人に発現する(イ) 反応

- | | ア | イ |
|---|--------|-------|
| 1 | 一般用医薬品 | 有害な |
| 2 | 一般用医薬品 | 意図しない |
| 3 | 医療用医薬品 | 有害な |
| 4 | 許可医薬品 | 意図しない |
| 5 | 許可医薬品 | 有害な |

【医薬品に共通する特性と基本的な知識】

問5

以下の記述のうち、誤っているものを一つ選び、その番号を解答欄に記入しなさい。

- 1 医薬品の不適正な使用は、使用する人の誤解や認識不足に起因するものがある。
- 2 一部の医薬品は、みだりに他の医薬品や酒類等と一緒に摂取するといった乱用がなされると、過量摂取による急性中毒等を生じる危険性が高くなる。
- 3 医薬品を販売する際は、必要以上の大量購入や頻回購入などを試みる不審な購入者等には慎重に対処する必要がある。
- 4 人体に直接使用されない医薬品については、有害事象につながることはない。

問6

登録販売者の対応に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせを下から一つ選び、その番号を解答欄に記入しなさい。

- ア 一般用医薬品の総合感冒薬を用法用量どおりに1週間使用しても症状が改善しないとの相談を受けたので、用量を2倍にして様子を見るようアドバイスした。
- イ 一般用医薬品の咳止めシロップ^{せき}をまとめ買いしようとする客に購入の理由を尋ねた。
- ウ 小児は、錠剤^{のど}を喉に詰ませやすいので、粉碎した上で量を減らして与えるようアドバイスした。
- エ 瀉下剤^{しゃ}を添付文書の用法用量の最大量使用しても効果がないとの相談を受けたので、それ以上用量を増やさず、医療機関を受診するようにアドバイスした。

	ア	イ	ウ	エ
1	正	正	誤	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	正	誤
5	誤	正	誤	正

【医薬品に共通する特性と基本的な知識】

問 7

医薬品の相互作用に関する以下の記述について、正しいものの組み合わせを下から一つ選び、その番号を解答欄に記入しなさい。

- ア 複数の医薬品を併用した場合や、特定の食品と一緒に摂取した場合に、医薬品の作用が増強したり、減弱したりすることを相互作用という。
- イ かぜ薬、解熱鎮痛薬、鎮静薬、鎮咳去痰薬、アレルギー用薬等では、成分や作用が重複することが多く、通常、これらの薬効群に属する医薬品の併用は避けることとされている。
- ウ アセトアミノフェンは、酒類（アルコール）をよく摂取する人が使用すると、アルコールとの相互作用によって、通常の人より代謝が遅くなり、作用が強くなることがある。
- エ 医薬品と食品との相互作用は、専ら外用薬の使用に際して注意を要する。

- 1 (ア、イ) 2 (ア、エ) 3 (イ、ウ) 4 (ウ、エ)

問 8

小児に関する以下の記述について、()の中に入れるべき字句の正しい組み合わせを下から一つ選び、その番号を解答欄に記入しなさい。

小児は、大人と比べて身体の大きさに対して腸が（ ア ）、服用した医薬品の吸収率が（ イ ）。また、吸収されて循環血液中に移行した医薬品の成分が脳に達し（ ウ ）ため、中枢神経系に影響を与える医薬品で副作用を起こしやすい。

- | | ア | イ | ウ |
|---|----|----|-----|
| 1 | 長く | 低い | やすい |
| 2 | 長く | 低い | にくい |
| 3 | 長く | 高い | やすい |
| 4 | 短く | 低い | にくい |
| 5 | 短く | 高い | にくい |

【医薬品に共通する特性と基本的な知識】

問 9

小児及び乳幼児に関する以下の記述について、正しいものの組み合わせを下から一つ選び、その番号を解答欄に記入しなさい。

- ア 登録販売者は、小児への使用を避けることとされている医薬品の販売時には、購入者から状況を聞いて、想定される使用者の把握に努めるとともに、積極的に情報提供する必要がある。
- イ 乳幼児については、病気の状態が変わりやすく、早急な対処が必要なので、乳幼児を医療機関に連れて行くよりも乳幼児向けの用法用量が設定されている一般用医薬品を使用した方がよい。
- ウ 登録販売者は、一般用医薬品を乳幼児が誤飲、誤用したという相談があった場合、すぐに吐かせるか大量の水を飲ませ、そのまま様子を見るよう説明する必要がある。
- エ 登録販売者は、必ず年齢に応じた用法用量が定められている一般用医薬品を使用するよう、保護者等に対して説明する必要がある。

- 1 (ア、イ) 2 (ア、エ) 3 (イ、ウ) 4 (ウ、エ)

問 10

医薬品を使用する高齢者への説明に関する以下の記述のうち、誤っているものを一つ選び、その番号を解答欄に記入しなさい。

- 1 高齢者は、若年時と比べて副作用を生じるリスクが高いことから、医薬品の販売時に、起こりうる副作用の説明と起こった時の対応を説明した。
- 2 高齢者に口渇の副作用がある医薬品を販売する時に、誤嚥^{えん}に注意するように説明した。
- 3 70歳の高齢者は、生理機能が若年者の約半分に低下しているため、添付文書に記載してある用量の半分の量で使用するよう説明した。
- 4 65歳の人に、「使用上の注意」に記載されている高齢者に関する事項を説明した。

【医薬品に共通する特性と基本的な知識】

問 1 1

登録販売者の対応に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせを下から一つ選び、その番号を解答欄に記入しなさい。

- ア 医療機関で治療を受けている高齢者へ一般用医薬品を販売する際に、購入した医薬品を使用する時には医師又は薬剤師に相談するよう説明した。
- イ 高齢者に対し、医薬品の取り違え防止のため、医薬品の使用時は家族や介護者に確認してもらうなどの対応を薦めた。
- ウ 高齢者に対し、医薬品の外箱や添付文書の記載を読み取りにくい場合は、家族や介護者に読んでもらってから使用するよう説明した。
- エ 高齢者は医薬品の説明を理解するのに時間がかかるため、販売時に説明を省略した。

	ア	イ	ウ	エ
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	誤
3	正	誤	正	正
4	誤	正	正	正
5	誤	正	誤	正

問 1 2

以下の記述の正誤について、正しい組み合わせを下から一つ選び、その番号を解答欄に記入しなさい。

- ア 便秘薬は、その成分や用量によっては、流産や早産を誘発するおそれがある。
- イ ビタミンA含有製剤を妊娠前後の一定期間に過量摂取すると、胎児に先天異常を起こす危険性が高まるとされている。
- ウ 医薬品成分が胎盤関門を通過するメカニズムはすべて解明されている。
- エ 医薬品の種類によっては、医薬品の成分の一部が乳汁中に移行することがある。

	ア	イ	ウ	エ
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	誤	正
4	誤	誤	正	正
5	誤	正	誤	正

【医薬品に共通する特性と基本的な知識】

問 1 3

医薬品の保管に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせを下から一つ選び、その番号を解答欄に記入しなさい。

- ア 医薬品の有効成分及び添加物成分には、高温や多湿、光等によって品質の劣化を起しやす多いものが多い。
- イ 医薬品は、適切な保管・陳列がなされれば、経時変化による品質の劣化は起こらない。
- ウ 医薬品に表示されている「使用期限」は、開封後に品質が保証される期限のことである。
- エ 一般用医薬品は、購入後すぐに使用されるとは限らず、家庭において保管されることも多いことから、使用期限から十分な余裕を持って販売されることが望ましい。

	ア	イ	ウ	エ
1	正	正	正	誤
2	正	誤	誤	正
3	正	誤	正	正
4	誤	正	正	正
5	誤	正	誤	正

問 1 4

プラセボ効果に関する以下の記述について、正しいものの組み合わせを下から一つ選び、その番号を解答欄に記入しなさい。

- ア プラセボ効果を目的として医薬品が使用されるべきではない。
- イ 暗示効果や条件付けによる生体反応、自然緩解などが関与して生じるものと考えられている。
- ウ 主観的な変化だけであり、客観的に測定可能な変化として現れることはない。
- エ 医薬品の有効成分の薬理作用による効果である。

- 1 (ア、イ) 2 (ア、ウ) 3 (イ、エ) 4 (ウ、エ)

【医薬品に共通する特性と基本的な知識】

問 1 5

一般用医薬品の役割に関する以下の記述のうち、誤っているものを一つ選び、その番号を解答欄に記入しなさい。

- 1 生活の質（QOL）の改善・向上
- 2 生活習慣病の根本的な治療
- 3 健康状態の自己検査
- 4 健康の維持・増進
- 5 保健衛生（衛生害虫の防除、殺菌消毒等）

問 1 6

セルフメディケーションに関する以下の記述について、（ ）の中に入れるべき字句の正しい組み合わせを下から一つ選び、その番号を解答欄に記入しなさい。なお、同じ記号の（ ）内には同じ字句が入ります。

セルフメディケーションとは、専門家による適切なアドバイスの下、身近にある（ ア ）を利用して（ イ ）に伴う症状の改善等を図ることをいう。

なお、（ ア ）の利用のほか、（ ウ ）についてセルフメディケーションという場合もある。

	ア	イ	ウ
1	一般用医薬品	軽度な疾病	医療用医薬品の利用
2	一般用医薬品	軽度な疾病	生活習慣の改善等を含めた健康維持・増進全般
3	健康食品	重度な疾病	生活習慣の改善等を含めた健康維持・増進全般
4	一般用医薬品	重度な疾病	生活習慣の改善等を含めた健康維持・増進全般
5	健康食品	軽度な疾病	医療用医薬品の利用

【医薬品に共通する特性と基本的な知識】

問 1 7

販売時のコミュニケーションに関する以下の記述のうち、誤っているものを一つ選び、その番号を解答欄に記入しなさい。

- 1 医薬品の販売に際しては、購入者側が情報提供を受けようとする意識が乏しい場合でも、登録販売者は、購入者側から医薬品の使用状況に関する情報を引き出し、適切な情報提供を行うことが重要である。
- 2 医薬品の適正使用のための情報について購入者から求めがあっても、添付文書や製品表示に記載がある場合は、説明を省略してもよい。
- 3 医薬品の販売に際して、現に症状のある本人が購入しようとしている場合は、購入者の言葉だけでなく、その人の状態や様子から得られる情報も状況把握につながる。
- 4 医薬品の販売に際しては、購入者と会話しやすい雰囲気づくりに努め、購入者が医薬品を使用する状況について自らの意志で伝えてもらえるよう促していくことが重要である。

問 1 8

サリドマイドに関する以下の記述について、正しいものの組み合わせを下から一つ選び、その番号を解答欄に記入しなさい。

- ア サリドマイド製剤は便秘薬として販売されていた。
- イ 先天異常の原因となる血管新生を妨げる作用は、サリドマイドの光学異性体のうち、S 体のみが有する作用である。
- ウ 妊娠している女性がサリドマイドを摂取した場合、胎盤を通じて胎児に移行し、胎児に四肢欠損、視聴覚等の感覚器や心肺機能の障害等の先天異常が発生することがある。
- エ サリドマイドによる薬害事件は日本のみであり、世界的には問題とならなかった。

- 1 (ア、イ) 2 (ア、エ) 3 (イ、ウ) 4 (ウ、エ)

【医薬品に共通する特性と基本的な知識】

問 19

スモンに関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせを下から一つ選び、その番号を解答欄に記入しなさい。

- ア スモンとは、「^{せきずい}亜急性脊髄視神経症」のことである。
- イ スモンはその症状として、初期には腹部の膨満感から激しい腹痛を伴う下痢を生じ、次第に下半身の痺れや脱力、歩行困難等が現れるが一時的であり、時間の経過とともに症状は軽快し、後遺症は残らない。
- ウ スモン訴訟とは、整腸剤として販売されていたキノホルム製剤を使用したことにより、スモンに罹患したことに対する損害賠償訴訟である。
- エ 現在ではスモン患者に対し、施術費及び医療費の自己負担分の公費負担、重症患者に対する介護事業等が行われている。

	ア	イ	ウ	エ
1	正	正	正	正
2	正	誤	誤	正
3	正	誤	正	正
4	誤	正	正	誤
5	誤	正	誤	正

問 20

H I V訴訟とC J D訴訟に関する以下の記述のうち、誤っているものを一つ選び、その番号を解答欄に記入しなさい。

- 1 H I V訴訟は、血友病患者がヒト免疫不全ウイルス（H I V）が混入した原料血漿^{しょう}から製造された血液凝固因子製剤の投与を受けたことにより、H I Vに感染したことに対する損害賠償訴訟である。
- 2 C J D訴訟は、脳外科手術等に用いられていたヒト乾燥硬膜を介してクロイツフェルト・ヤコブ病（C J D）に罹患したことに対する損害賠償訴訟である。
- 3 C J Dの原因はウイルス感染によるものである。
- 4 H I VやC J Dの感染被害が多発したことから、「生物由来製品感染等被害救済制度」の創設がなされた。

【人体の働きと医薬品】

問 2 1

医薬品の副作用に関する以下の記述のうち、正しいものの組み合わせを下から一つ選び、その番号を解答欄に記入しなさい。

- ア 医薬品によっては、一過性の副作用として、瞳孔の縮小（縮瞳）による異常な眩しさの症状が現れることがある。
- イ 「重篤副作用疾患別対応マニュアル」には、一般用医薬品による副作用についての内容は含まれていない。
- ウ アナフィラキシー以外の副作用でも救急救命処置が必要となることがある。
- エ 医薬品の副作用による喘息は坐薬でも誘発されることがある。

- 1 (ア、イ) 2 (ア、ウ) 3 (イ、エ) 4 (ウ、エ)

問 2 2

「一般用医薬品を使用した後に発疹・発赤等の皮膚症状が現れた」と相談を受けた登録販売者の対応として正しいものの組み合わせを下から一つ選び、その番号を解答欄に記入しなさい。

- ア 原因と思われる医薬品の添付文書を持参し、医師・薬剤師に相談するよう勧めた。
- イ 症状にあわせ、皮膚症状の治療のための一般用医薬品を併用するよう勧めた。
- ウ 原因と思われる医薬品の使用を直ちに中止してはならないことを伝えた。
- エ 一度症状がおさまっても、原因と思われる医薬品を再度使用することは避けるよう伝えた。

- 1 (ア、イ) 2 (ア、エ) 3 (イ、ウ) 4 (ウ、エ)

【人体の働きと医薬品】

問 2 3

以下の記述について、() の中に入れるべき字句の正しい組み合わせを下から一つ選び、その番号を解答欄に記入しなさい。

医薬品の使用により生じる薬疹は、皮膚以外に目や口腔粘膜の異常が見られる場合には (ア) や (イ) 等の重症型薬疹へ急速に進行することがある。

	ア	イ
1	接触性皮膚炎	光線過敏症
2	皮膚粘膜眼症候群	接触性皮膚炎
3	中毒性表皮壊死症	光線過敏症
4	皮膚粘膜眼症候群	中毒性表皮壊死症
5	接触性皮膚炎	中毒性表皮壊死症

問 2 4

医薬品の使用により生じるアナフィラキシー様症状として、正しいものの組み合わせを下から一つ選び、その番号を解答欄に記入しなさい。

- ア 浮腫
- イ 敗血症
- ウ 呼吸困難
- エ 高血圧

- 1 (ア、イ) 2 (ア、ウ) 3 (イ、エ) 4 (ウ、エ)

【人体の働きと医薬品】

問 2 5

医薬品の使用により生じる中毒性表皮壊死症の記述として誤っているものを下から一つ選び、その番号を解答欄に記入しなさい。

- 1 皮膚の剥離、びらん等が認められる。
- 2 高熱がある。
- 3 全身が広範囲にわたって赤くなる。
- 4 スティーブンス・ジョンソン症候群とも呼ばれる。

問 2 6

医薬品の副作用に関する以下の記述について、()の中に入れるべき字句を下から一つ選び、その番号を解答欄に記入しなさい。なお、2ヶ所の()内には同じ字句が入ります。

体内に塩分と水が貯留し、体からカリウムが失われたことに伴う症状であって、副腎皮質からの()分泌が増えていないにもかかわらず生じることから、偽()症と呼ばれている。

- 1 アドレナリン
- 2 アルドステロン
- 3 ビリルビン
- 4 インスリン
- 5 ナトリウム

【人体の働きと医薬品】

問 27

医薬品の使用により生じるイレウス様症状（腸閉塞^{そく}様症状）の記述として、誤っているものを下から一つ選び、その番号を解答欄に記入しなさい。

- 1 腹痛が発生する。
- 2 おならの発生が増える。
- 3 嘔吐^{おう}による脱水症状が現れることがある。
- 4 全身状態の衰弱が急激に進むことがある。

問 28

医薬品の使用により生じる無菌性髄膜炎^{ずい}に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせを下から一つ選び、その番号を解答欄に記入しなさい。

- ア 医薬品の副作用によるものでは、医薬品の使用を中止すれば後遺症は発生しない。
- イ 多くの場合、発症は急性で、首筋のつっぱりを伴った激しい頭痛が現れる。
- ウ 髄膜炎のうち、髄液^{ずい}に細菌・真菌が検出されないものをいう。
- エ 関節リウマチの基礎疾患がある人は、発症するリスクが高いとされる。

	ア	イ	ウ	エ
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	正	正
5	誤	誤	誤	正

【人体の働きと医薬品】

問29

医薬品の使用によって生じる肝機能障害に関する以下の記述のうち、正しいものを一つ選び、その番号を解答欄に記入しなさい。

- 1 自覚症状がみられない場合がある。
- 2 主な症状は関節痛である。
- 3 皮膚の色が変化することはない。
- 4 ヘモグロビンが尿中に排出され尿の色が濃くなる。

問30

医薬品の使用により排尿機能に現れる副作用に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせを下から一つ選び、その番号を解答欄に記入しなさい。

- ア 交感神経系を抑制する作用がある医薬品の使用により、膀胱^{ぼうこう}の排尿筋の収縮が抑制され、残尿感等の症状を生じることがある。
- イ 排尿時に尿が出にくいという副作用は、男性特有の症状である。
- ウ 副作用による膀胱炎^{ぼうこう}様症状では、排尿時に痛みを伴うことがある。
- エ 副作用による膀胱炎^{ぼうこう}様症状では、尿意が減少する。

	ア	イ	ウ	エ
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	誤	誤	正	誤
4	誤	誤	正	正
5	正	誤	誤	正

【人体の働きと医薬品】

問31

消化器系に関する以下の記述のうち、誤っているものを一つ選び、その番号を解答欄に記入しなさい。

- 1 消化管の内容物を細かくして消化液と混和することを機械的消化という。
- 2 肝臓は消化腺^{せん}のひとつであり消化液を分泌する。
- 3 消化酵素の作用により飲食物を分解することを物理的消化という。
- 4 咽頭^{いん}は消化管の一部である。

問32

唾液^だの役割に関する以下の記述のうち、正しいものの組み合わせを下から一つ選び、その番号を解答欄に記入しなさい。

- ア 食物を湿潤させて噛み砕き^かやすくし、また、咀嚼物^{そしゃく}を滑らかにし、嚥下^{えん}を容易にする。
- イ デンプンをトリプシンや麦芽糖に分解する消化酵素が含まれている。
- ウ リゾチームが含まれ、殺菌や抗菌の働きがある。
- エ 口腔内^{くわう}を酸性に保ち、歯の齶蝕^う（むし歯）を防ぐ。

- 1 (ア、イ) 2 (ア、ウ) 3 (イ、エ) 4 (ウ、エ)

【人体の働きと医薬品】

問 3 3

胃に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせを下から一つ選び、その番号を解答欄に記入しなさい。

- ア 胃内を強酸性に保つ胃酸には、内容物の腐敗を起こさないようにする役目もある。
- イ 胃の内壁は、ひだがなく平滑となっている。
- ウ 胃で蛋白質を消化する酵素はペプトンである。
- エ 胃の粘膜を覆う粘液の分泌と胃液分泌のバランスが崩れると、胃自体が消化作用を受ける。

	ア	イ	ウ	エ
1	正	正	正	誤
2	正	誤	誤	正
3	正	誤	正	正
4	誤	正	正	正
5	誤	正	誤	正

問 3 4

^{すい}膵臓に関する以下の記述のうち、正しいものの組み合わせを下から一つ選び、その番号を解答欄に記入しなさい。

- ア ^{すい}膵液は酸性である。
- イ ^{すい}膵臓は胃の後下部に位置する細長い臓器である。
- ウ ^{すい}膵臓は複数種類の消化酵素を分泌する。
- エ ^{すい}膵臓はインスリンを分泌し、血圧を下げる働きがある。

- 1 (ア、イ) 2 (ア、エ) 3 (イ、ウ) 4 (ウ、エ)

【人体の働きと医薬品】

問35

肝臓と胆嚢^{のう}に関する以下の記述のうち、正しいものの組み合わせを下から一つ選び、その番号を解答欄に記入しなさい。

- ア 肝臓はビタミンの貯蔵臓器でもある。
- イ 肝臓では、必須アミノ酸を生合成することができる。
- ウ 胆管閉塞^{そく}を起こすと、ビリルビンが循環血液中に滞留し黄疸^{だん}を生じる。
- エ 胆嚢^{のう}は赤血球を分解して胆汁酸塩を産生し、胆汁として腸管内に分泌する。

- 1 (ア、イ) 2 (ア、ウ) 3 (イ、エ) 4 (ウ、エ)

問36

呼吸器系に関する以下の記述のうち、正しいものを一つ選び、その番号を解答欄に記入しなさい。

- 1 鼻腔^{くう}に分泌される鼻汁にはリゾチームが含まれ、気道の防御機構の一つとなっている。
- 2 咽頭の後壁にある扁桃^{いん}は成長ホルモンを分泌する器官で、俗に扁桃腺^{へん せん}とも呼ばれる。
- 3 気管の粘膜は線毛上皮で覆われており、吸い込まれた細菌等の異物は、線毛運動による粘液層の連続した流れにより肺に向けて積極的に運ばれ、痰^{たん}として排出される。
- 4 肺胞とその周囲の毛細血管を支持している組織を横隔膜といい、横隔膜を介して血液中の二酸化炭素が排出される。

【人体の働きと医薬品】

問 37

循環器系に関する以下の記述のうち、正しいものを一つ選び、その番号を解答欄に記入しなさい。

- 1 心臓はポンプの役割を果たすことによって血管系とリンパ系の循環をまかなう。
- 2 肺でのガス交換が行われた血液は、心臓の右側部分（右心房、右心室）に入り、そこから全身に送り出される。
- 3 赤血球に含まれるヘモグロビンによって、肺で取り込まれた酸素が全身の組織へ供給される。
- 4 リンパ管は腎臓で開放されており、リンパ液を尿として体外に排出する。

問 38

人体の各部に関する以下の記述のうち、誤っているものを一つ選び、その番号を解答欄に記入しなさい。

- 1 ^ひ脾臓にはリンパ組織があり、血流中の細菌やウイルス等の異物に対する免疫反応が行われる。
- 2 自律神経系は重要な器官であり、同じ働きを持つ交感神経系と副交感神経系の二重構造となっている。
- 3 ^{ずい}副腎髄質ではアドレナリンとノルアドレナリンが産生、分泌される。
- 4 目の水晶体には血管が通っておらず、角膜と水晶体の間に満たされた房水によって栄養分が供給されている。

【人体の働きと医薬品】

問39

医薬品の使用方法に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせを下から一つ選び、その番号を解答欄に記入しなさい。

- ア 錠剤の中には口中で噛み砕いてはいけないものや、噛み砕いて服用してよいものもある。
- イ 顆粒剤は、粒の表面がコーティングされているものがあるため、噛み砕かずに水などで喉に流し込む必要がある。
- ウ 軟膏剤とクリーム剤について、適用部位を水から遮断する場合には軟膏剤を用い、水で洗い流しやすくする場合等ではクリーム剤を用いることが多い。
- エ カプセル剤はゼラチンを原料として用いているので、蛋白質にアレルギーを持つ人では使用を避けるなどの注意が必要である。

	ア	イ	ウ	エ
1	正	正	正	正
2	正	正	正	誤
3	正	正	誤	正
4	正	誤	正	正
5	誤	正	正	正

問40

一般用医薬品に関する以下の記述のうち、正しいものを一つ選び、その番号を解答欄に記入しなさい。

- 貼付剤は一般的に、有効成分が皮膚から吸収されて循環血液中に入り、全身作用をもたらすことを目的とするものである。
- 鼻腔の粘膜に適用する点鼻薬は、すぐに鼻汁で洗い流されるためアレルギー性のものを除き全身性の副作用をもたらすほど吸収されることはない。
- 目の粘膜に適用する点眼薬は、すぐに涙道に流れてしまい、アレルギー性のものを除き全身性の副作用をもたらすほど吸収されることはない。
- 体内に吸収され循環血液中に移行した医薬品の成分は、ほとんどが血液の中で血漿蛋白質と結合した複合体を形成し、代謝されることなく排泄される。

【医薬品の適正使用・安全対策】

問 4 1

一般用医薬品の添付文書に記載されている項目に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせを下から一つ選び、その番号を解答欄に記入しなさい。

- ア 薬効名とは、その医薬品の薬効又は性質（例えば、主たる有効成分など）が示されたものであり、添付文書には必ず記載しなければならない。
- イ 添付文書の内容のうち重要な部分を改訂した際は、改訂年月を記載するとともに改訂された箇所を明示することとされている。
- ウ 添付文書は開封時に一度目を通せば十分というものではないため、「大切に保存すること」など、添付文書の保管に関する記載がある。
- エ 使用上の注意は、「してはいけないこと」、「相談すること」及び「その他の注意」から構成されたもので、これらの項目にはそれぞれ統一された標識的マークがある。

	ア	イ	ウ	エ
1	正	正	誤	誤
2	誤	正	正	誤
3	誤	正	誤	正
4	正	誤	正	正
5	誤	誤	誤	正

問 4 2

一般用医薬品の添付文書の記載内容に関する以下の記述について、()の中に入れるべき字句の正しい組み合わせを下から一つ選び、その番号を解答欄に記入しなさい。

「用法及び用量」の欄には、定められた用法・用量を厳守する旨や(ア)に由来する必要な注意等が記載されている。

また、「効能または効果」の欄には、(イ)症状、用途等が示されている。

	ア	イ
1	成分及び添加物	登録販売者の判断による
2	成分及び添加物	薬剤師の判断による
3	成分及び添加物	一般の生活者が自ら判断できる
4	剤型・形状	登録販売者の判断による
5	剤型・形状	一般の生活者が自ら判断できる

【医薬品の適正使用・安全対策】

問 4 3

以下の表は、A欄は一般用医薬品の使用上の注意の中で、「次の人は使用（服用）しないこと」とされている事項、B欄は主な成分や薬効群についての記述である。A欄とB欄の関係が正しいものの組み合わせを下から一つ選び、その番号を解答欄に記入しなさい。

	A欄	B欄
ア	「次の症状がある人」 —「患部が化膿 ^{のう} している人」	インドメタシンが配合された外用薬
イ	「15歳未満の小児」	アミノ安息香酸エチル
ウ	「妊婦または妊娠していると思われる人」	塩酸ジフェンヒドラミンを主薬とする睡眠改善薬
エ	「次の症状がある人」 —前立腺肥大による排尿困難	塩化リゾチーム

- 1 (ア、イ) 2 (ア、ウ) 3 (イ、エ) 4 (ウ、エ)

問 4 4

一般用医薬品の記載事項に関する以下の記述について、誤っているものを一つ選び、その番号を解答欄に記入しなさい。

- 1 一般用医薬品には、リスク区分を示す識別表示をすることが義務付けられている。
- 2 添付文書は通常外箱等に封入されていることから、開封しなければ製品の情報が判断できないため、添付文書集を販売店舗に備えておくよう薬事法で定められている。
- 3 外箱等に医薬品の適切な選択に役立つ情報が表示されており、開封しなくても購入者が確認できるようになっている。
- 4 内服液剤の添付文書には、1回服用量中0.1mlを超えてアルコールを含む場合は、アルコールを含有する旨及びその含有量が記載されている。

【医薬品の適正使用・安全対策】

問45

緊急安全性情報に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせを下から一つ選び、その番号を解答欄に記入しなさい。

- ア ドクターレターとも呼ばれ、A4サイズの黄色地の印刷物である。
イ 医療用医薬品や医家向け医療機器についての情報伝達であり、一般用医薬品では配布されることはない。
ウ 医薬品又は医療機器について、重要かつ緊急な情報伝達が必要な場合に配布される。
エ 厚生労働省から、その医薬品等を取り扱う医薬関係者に対し、原則として直接配布される。

	ア	イ	ウ	エ
1	正	正	正	誤
2	正	誤	正	誤
3	誤	誤	正	正
4	誤	正	誤	誤
5	正	誤	誤	正

問46

連用を避ける必要がある一般用医薬品とその理由に関する以下の記述のうち、正しいものの組み合わせを一つ選び、その番号を解答欄に記入しなさい。

	一般用医薬品	理由
ア	鼻炎用点鼻薬	－ 二次充血、鼻づまり等を生じるおそれがあるため
イ	次硝酸ビスマスを含む止瀉薬 ^{しゃ}	－ 偽アルドステロン症を生じるおそれがあるため
ウ	ステロイド性抗炎症成分を含む ^じ 外用痔疾用薬（坐薬及び注入軟膏 ^{こう} ）	－ 副腎皮質の機能低下を生じるおそれがあるため
エ	アルジオキサを含む胃腸鎮痛鎮痙薬 ^{けい}	－ 鬱血性心不全が現れることがあるため ^{うっ}

- 1 (ア、イ) 2 (ア、ウ) 3 (イ、エ) 4 (ウ、エ)

【医薬品の適正使用・安全対策】

問 4 7

一般用医薬品の適正使用に関する以下の記述のうち、誤っているものを一つ選び、その番号を解答欄に記入しなさい。

- 1 医薬品の販売等に従事する専門家には、購入者等に対し正確なアドバイスを与え、セルフメディケーションを適切に支援することが期待されている。
- 2 健康に対する意識の高まりに伴って、医薬品の有効性や安全性等に関する情報に対するニーズが多様化・高度化する傾向にある。
- 3 医薬品の販売等に従事する専門家は、購入者等に対して、常に最新の知見に基づいた適切な情報提供を行えるよう積極的に情報収集する必要がある。
- 4 一般の生活者が医薬品の有効性等に関する情報を入手するには、医薬品の販売等に従事する専門家からの情報提供が唯一の手段である。

問 4 8

薬事法第77条の4の2の規定による副作用等の報告に関する以下の記述のうち、正しいものの組み合わせを下から一つ選び、その番号を解答欄に記入しなさい。

- ア 副作用等の報告義務者は、医療機関や薬局の開設者であり、医師や薬剤師、登録販売者等の個人ではない。
- イ 報告対象には、医薬品や医療機器だけでなく、医薬部外品又は化粧品による健康被害についても含まれる。
- ウ 報告は、都道府県を通じて厚生労働省へ報告することとなっている。
- エ 死亡や障害等重篤な副作用が起こった時だけでなく、重篤な副作用発生のおそれがあり報告の必要性が認められる場合にも報告の義務がある。

- 1 (ア、イ) 2 (ア、ウ) 3 (イ、エ) 4 (ウ、エ)

【医薬品の適正使用・安全対策】

問 4 9

国内で発生した副作用症例、感染症症例に関し、企業からの報告については、その内容・重篤性により報告期限が異なっている。副作用による死亡事例の報告期限として適当なものを下から一つ選び、その番号を解答欄に記入しなさい。

- 1 5日以内
- 2 15日以内
- 3 30日以内
- 4 90日以内
- 5 150日以内

問 5 0

以下の一般用医薬品のうち、医薬品副作用被害救済制度の対象となるものを一つ選び、その番号を解答欄に記入しなさい。

- 1 手指や創傷面の殺菌・消毒に用いる消毒薬
- 2 ハエ、蚊、ゴキブリ等の駆除に用いる殺虫剤
- 3 ワセリン
- 4 一般用検査薬
- 5 精製水

【医薬品の適正使用・安全対策】

問 5 1

以下の表は、A欄は医薬品添加物成分、B欄は一般用医薬品の「使用上の注意」の中で、「次の人は使用（服用）しないこと」とされている事項についての記述である。A欄とB欄の関係が正しいものを一つ選び、その番号を解答欄に記入しなさい。

	A欄	B欄
1	カゼイン、カゼインナトリウム	透析療法を受けている人
2	カゼイン、カゼインナトリウム	妊婦又は妊娠していると思われる人
3	カゼイン、カゼインナトリウム	本剤又は牛乳によるアレルギー症状を起こしたことがある人
4	黄色4号（タートラジン）	透析療法を受けている人
5	黄色4号（タートラジン）	本剤又は牛乳によるアレルギー症状を起こしたことがある人

問 5 2

医薬品による健康被害に関する以下の記述について、（ ）の中に入れるべき字句の正しい組み合わせを下から一つ選び、その番号を解答欄に記入しなさい。

医薬品による健康被害に関して、製品不良など（ ア ）に損害賠償責任がある場合は、（ イ ）により開設された（ ウ ）への相談が推奨される。

	ア	イ	ウ
1	製薬企業	厚生労働省	医薬品PLセンター
2	医薬品販売店舗	日本製薬団体連合会	医薬品PLセンター
3	医薬品販売店舗	厚生労働省	独立行政法人医薬品医療機器総合機構
4	製薬企業	日本製薬団体連合会	医薬品PLセンター
5	厚生労働省	日本製薬団体連合会	独立行政法人医薬品医療機器総合機構

【医薬品の適正使用・安全対策】

問53

一般用医薬品の添付文書の「使用上の注意」に記載される項目に関する以下の記述について、()の中に入れるべき字句の正しい組み合わせを下から一つ選び、その番号を解答欄に記入しなさい。

「してはいけないこと」については、守らないと症状が悪化する事項、副作用又は事故等が起こりやすくなる事項について記載されている。例えば、その医薬品に配合されている成分によって「(ア)」が引き起こされる場合は「(イ)」と記載されている。

	ア	イ
1	眠気	大量に使用（服用）しないこと
2	手足のしびれ	大量に使用（服用）しないこと
3	吐き気	服用後、乗物または機械類の運転操作をしないこと
4	手足のしびれ	服用後、乗物または機械類の運転操作をしないこと
5	眠気	服用後、乗物または機械類の運転操作をしないこと

問54

一般用医薬品による健康被害に関する以下の記述のうち、正しいものの組み合わせを下から一つ選び、その番号を解答欄に記入しなさい。

ア 我が国における塩酸フェニルプロパノールアミン含有医薬品による脳出血等の副作用症例の多くは、用法・用量の範囲を超えた使用や禁忌とされている高血圧症患者の使用によるものであった。

イ 解熱鎮痛成分としてアミノピリン、スルピリンが配合されたアンプル入りかぜ薬の副作用による死亡例が複数確認されたが、アンプル剤は他の内服の剤形と比べ副作用が生じやすいことが確認されたことから、当時の厚生省より回収が要請された。

ウ 1991年以降、小^{しょうせいりゅうとう}青竜湯とインターフェロン製剤との併用例において、間質性肺炎が報告されたため、併用を禁忌とする旨の使用上の注意の改定がなされた。

エ 一般用かぜ薬の使用によると疑われる熱性けいれんの発生事例を踏まえ、2003年5月、「症状が悪化した場合には服用を中止して医師の診療を受ける」等の注意喚起がなされた。

- 1 (ア、イ) 2 (ア、エ) 3 (イ、ウ) 4 (ウ、エ)

【医薬品の適正使用・安全対策】

問 5 5

医薬品適正使用に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせを下から一つ選び、その番号を解答欄に記入しなさい。

- ア 毎年10月17日～23日は、「薬と健康の週間」として医薬品の適正使用のための啓発活動が行われる。
- イ 毎年6月20日～7月19日は、「ダメ。ゼッタイ。」普及運動として国や各自治体で啓発活動が行われる。
- ウ 一般用医薬品では、薬物乱用が起こるおそれはない。
- エ 薬物乱用は、乱用者自身の健康を損なうだけでなく、社会的弊害も生じるおそれがある。

	ア	イ	ウ	エ
1	正	正	誤	誤
2	正	誤	正	正
3	正	正	誤	正
4	誤	誤	正	正
5	正	誤	正	誤

問 5 6

授乳中の人への使用について、添付文書の使用上の注意において「相談すること」とされている薬効群と乳汁中に移行する可能性があるその薬効群の成分との組み合わせとして、誤っているものを下から一つ選び、その番号を解答欄に記入しなさい。

	薬効群	成分
1	止瀉薬 ^{しゃ}	－ 塩酸ロペラミド
2	かぜ薬、鎮咳去痰薬 ^{がい たん}	－ リン酸コデイン
3	胃腸鎮痛鎮痙薬、乗物酔い防止薬 ^{けい}	－ エテンザミド
4	婦人用薬	－ エストラジオール
5	外用痔疾用薬（坐薬、注入軟膏 ^{じ こう} ）	－ 塩酸メチルエフェドリン

【医薬品の適正使用・安全対策】

問57

一般用医薬品のうち、スクラルファートが配合された胃腸薬について、添付文書の「してはいけないこと」の欄に記載されるべき注意点の組み合わせを下から一つ選び、その番号を解答欄に記入しなさい。

- ア 胃酸過多の症状がある人は使用しないこと。
- イ 高血圧の診断を受けた人は使用しないこと。
- ウ 透析療法を受けている人は使用しないこと。
- エ 長期連用しないこと。

- 1 (ア、イ) 2 (ア、ウ) 3 (イ、エ) 4 (ウ、エ)

問58

以下の一般用医薬品のうち、動物実験での催奇形性が報告されており、妊婦または妊娠していると思われる人の使用について医師等への相談が必要とされているものとして、正しいものの組み合わせを下から一つ選び、その番号を解答欄に記入しなさい。

- ア アスピリンが配合された解熱鎮痛薬
- イ リン酸コデインが配合されたかぜ薬
- ウ ヒマシ油が配合された瀉^{しゃ}下薬
- エ ポビドンヨードが配合された殺菌消毒薬

- 1 (ア、イ) 2 (ア、エ) 3 (イ、ウ) 4 (ウ、エ)

【医薬品の適正使用・安全対策】

問59

医薬品副作用被害救済制度に関する以下の記述について、誤っているものを一つ選び、その番号を解答欄に記入しなさい。

- 1 給付の請求先は厚生労働省である。
- 2 給付には、医療費、障害年金等の種類があり、請求期限が定められているものがある。
- 3 医薬品の不適正な使用による健康被害については、給付の対象とはならない。
- 4 給付の請求にあたっては、その医薬品を販売した医薬品の販売業者等の作成した販売証明書等が必要である。

問60

一般用医薬品の保管及び取扱い上の注意に関する以下の記述のうち、誤っているものを一つ選び、その番号を解答欄に記入しなさい。

- 1 誤用の原因となる恐れがあるため、医薬品を他の容器に移し替えることは避けた方が良い。
- 2 眼科用薬は、他の人と共用しないこととされている。
- 3 家庭内での保管の際は、小児の手の届かないところに保管する等の工夫が必要である。
- 4 錠剤、カプセル剤、散剤は、変質を避けるため、冷蔵庫での保管が適当である。